

駐屯地モニター会議開催



駐屯地（司令 安河内 2佐）は2月7日、平成27年度駐屯地モニター会議を開催した。

会議に先立ち部隊長紹介、司令挨拶、平成27年度広報行事説明を駐屯地モニターの方々に對して行った。

その後、広報室長の司会進行の下、議題に入り、「地域の方々の理解と信

頼を得るため出雲駐屯地はどうあるべきか」というテーマから会議は進められた。

モニターの方々からは災害派遣・防災訓練及び駐屯地行事（広報）や部外行事支援について建設的な意見・要望が数多く上げられ熱のこもった討議が行われた。

会議終了後は隊員食堂において駐屯地各部隊長を交えて和やかな雰囲気の中、やかな雰囲気の中、会食が行われ、駐屯地と地域の一体化及び防衛基盤の拡充・発展を図るとともに駐屯地モニターの方々に委嘱期間の労をねぎらうことができた。

駐屯地の隊務運営に関して駐屯地周辺に住居する方々の意見・要望などを聴取し、駐屯地と地域社会との一体化を図ることを目的として、一年間活動していたたく制度である。

駐屯地モニター制度とは



発行所 島根県隊友会
編集協力 出雲駐屯地 広報室
印刷所 (有)福岡秀文堂



浜田・安来にて

給水支援実施

平成28年1月24日から25日にかけて強い寒波の影響により、浜田市及び安来市等で水道管破裂などにより断水が起きた。

出雲駐屯地は県知事からの災害派遣要請に基づき、給水支援を行った。

出雲駐屯地からの派遣規模は浜田市へ隊員延べ22名、車両18両。総給水量6,810L。安来市へ人員10名の他、第8普通科連隊（米子）120名、第13後方支援隊（海田市）20名と延べ150名の隊員・延べ64両の車両が約1週間にわたって精力的に活動し、総給水量69,982Lに上った。

この災害派遣活動に対し、出雲駐屯地は島根県知事より感謝状を授与した。



▲県より感謝状を受ける司令



浜田市周布町にて▶給水支援活動の様子

方面隊偵察警戒車射撃競技会

優勝

3月2日、中部方面隊の4コ偵察隊が一堂に会し、偵察警戒車による射撃の腕を競い合った「平成27年度方面隊偵察警戒車射撃競技会」が、あいはら野演習場（滋賀県）において実施された。各偵察部隊から偵察警戒車2コ班（1コ班・2両）が編成され、泥ねい化した戦車射場で車載機関銃躍進射撃及び、25mm機関砲躍進射撃の課目で競い合った。

競技会優勝を目標に練成してきた第13偵察隊（隊長 安河内2佐）は、その実力を十分に発揮して、他の偵察隊には成し得なかった2個班とも全的命中という見事な成績で、部隊対抗の部の優勝を収めた。競技会に参加した隊員達は、この優勝に驕ることなく更なる戦闘射撃速度の向上を図っていきたくと語っていた。

尚、第13後方支援隊第2整備中隊偵察直接支援小队（小隊長 中村2尉）は、直接支援隊の部において優勝の栄誉を収めた。



▶表彰される第13偵察隊



▲射撃を行う偵察警戒車



▶胴上げされる第13偵察隊長

平成27年度団戦技競技会

総合優勝

第304施設隊（隊長 渡邊2佐）は、平成28年3月1日から3月3日（一部は2月24日個人走に参加）までの間、大久保駐屯地で行われた平成27年度団戦技競技会に参加した。戦技種目は持続走（個人走及び断郊走）、銃剣道（団体戦及び個人戦）である。

属全隊員が一丸となり120%のベストパフォーマンスを発揮し、持続走個人走「第1位」断郊走「第4位」、銃剣道団体「第2位」を獲得、そして見事に第1部「総合優勝」の栄冠を勝ち取り、昨年度の雪辱を果たすことが出来た。

「強固な団結、厳正な規律、旺盛な士気の醸成による強固な部隊の育成」を目的とした団戦技競技会での優勝を目指し、今年の1月5日より各種訓練・特別勤務等の制約があるなか、本格的に練成を開始し、降雨・雪、強風の悪天候及び厳しい寒さをもとせず「奪還・リゲイン」・「胴上げ・トスアップ」を合言葉に、全隊員が一丸となって練成に励んだ。



▲奮闘する第304施設隊選手



▶力走する第304施設隊の隊員



▲表彰される第304施設隊

守りたい人がある

地域の皆様と共に心をつなぐ

守りたい人がある

落合准教授を招き防衛講話

平成28年1月22日、駐屯地は東京工科大学 落合浩太郎准教授を招き「2016年世界の展望(リスク)」という演題で講話頂いた。

当初、駐屯地司令より落合准教授の紹介があった後、肉声の大きな声による先生の講話は会場の隊員達を忽ち惹き込んでいった。



講話内容は「連続性バイアス」「経済」「中国」「北朝鮮」「ロシア」「IS」「サウジアラビア」「ヨーロッパ」「アメリカ」「サイバー」といづれも先行き不透明で難しい内容ではあったが、解りやすい丁寧な説明で、

隊員達は世界のリスクについて理解することができた。講話終了後、隊員から出た質問についても丁寧な回答していただき疑問を払拭することができ、世界情勢の今と今後が見えてきた有意義な講演会であった。

倉吉父兄会の駐屯地見学

2月24日、鳥取県倉吉父兄会20名の方が駐屯地見学に来駐された。

見学者は先ず、広報室長より駐屯地の概要説明を受け、駐屯地資料室を見学した後、隊員食堂に移動し、鳥取県中部出身隊員同席で昼食を喫食した。

見学者の方々は顔見知りの隊員を激励する等、和やかな雰囲気の中の昼食会となった。

短い時間の駐屯地見学ではあったが、カメラを片手に資料室等を撮影するなど、沢山の思い出を残し、自衛隊に対しての更なる理解と



認識を深め、出雲駐屯地を後にした。

出雲駐屯地を知る会との新年会

平成28年2月3日、料裡亭 灘屋(出雲市大津町2063-11)において、出雲駐屯地を知る会、出雲商工会議所副会頭及び出雲駐屯地駐屯部隊長等による新年会が行われた。

新年会の開始に先立ち、出雲駐屯地司令により、本年1月に行った浜田市及び安来市に対する災害派遣活動の状況等についての懇談会が行われた。



▲部隊長と写真に収まる知る会会員の方々

駐屯地剣道部稽古始め

偵察隊 3等陸曹 瀧谷正志

平成28年1月5日、駐屯地剣道部の稽古始めを実施した。

部員全員揃うことはできなかったが、剣道部員の他2名の部外剣士が参加した。稽古は、基本打ちに始まり、地稽古、打ち込み稽古など約1時間行い技術向上また精神



平成28年春季全国火災予防運動参加

3月1日から7日までの間、「平成28年春季全国火災予防運動」が実施され、出雲駐屯地も参加した。この間、駐屯地では隊員から標語を募集・掲示したり、啓蒙放送を行うなど一層の防火意識を図った。また、駐屯地警備幹部(日野1尉)による消火器の取り扱い訓練、万が一に備えての火災呼集訓練など実施した。運動期間中だけに限らず、今後も出雲駐屯地から火災を出してはならぬと、隊員

一人一人が改めて誓いを立てた。

防火標語 (平成27年度全国統一標語) 「無防備な心に火災が かくれんぼ」

住宅防火3つの習慣

- 寝たばこは、絶対やめる
- ストープは、燃えやすいものから離れた位置で使用する
- ガスコンロなどのそばを離れるときは、必ず火を消す

4つの対策

- 逃げ遅れを防ぐために、住宅用火災報知機を設置する
- 寝具、衣類及びカーテンからの火災を防ぐために、防火品を使用する
- 火災を小さいうちに消すために、住宅用消火器等を設置する
- お年寄りや身体の不自由な人を守るために、隣近所の協力体制をつくる



▶警備幹部による消火器教育



地域の皆様と共に歩む 出雲駐屯地



陸上自衛隊

祝 定年退官

永年の勤務お疲れ様でした。

1月定年退官者

業務隊

准 陸 尉 園山 隆之
帰住先：出雲市神西沖町



2月定年退官者

業務隊

2 等 陸 佐 青戸 信一
帰住先：出雲市下古志町



業務隊

3 等 陸 尉 森山 幸二
帰住先：出雲市湖陵町



業務隊

3 等 陸 尉 岩成 公雄
帰住先：出雲市知井宮町



偵察隊

准 陸 尉 坂本 史朗
帰住先：出雲市斐川町



偵察隊

陸 曹 長 糸賀 公一
帰住先：出雲市小山町



偵察隊

陸 曹 長 鶴原 孝志
帰住先：出雲市中野美保南



業務隊

陸 曹 長 玉木 満則
帰住先：出雲市西代町



3月定年退官者

偵察隊

3 等 陸 尉 富長 重樹
帰住先：出雲市駅南町



5月定年退官予定者

偵察隊 陸 曹 長 本田 和資
施設隊 陸 曹 長 黒川 政弘
業務隊 陸 曹 長 金山 幸弘

隊友会活動

駐屯地餅つき行事に参加

事務局次長 築森寛喜

高根県隊友会（会長 持田佳郎）は平成27年12月23日出雲駐屯地（司令 安河内2佐）餅つき行事に、会長以下11名が参加し、隊員及び隊員家族との絆を一層深めることができました。

5個並ぶ白に、各部隊は杵を上げての勇壮な餅つき「よいしょ！よいしょ！」の掛け声と同時に、呼吸の合う手返して一臼、二臼：と出来る上がる餅に子供達も大喜び、あんこ・きな粉・おろし醤油餅等を全員で美味しく頂きました。

また、斐川町のダンスチーム「マインド」の皆さんによる華麗なコスチュームで（早変わり等）ステージ狭しと躍動感いっぱいダンスに魅了され



るとともに、飯南町からマスコットキャラクター「いらくん」（ねこの

マスコット）が来場、時々移動しながら見せる可愛い仕草に親子が近寄っては大歓迎ぶりであった。

そして、開庁62周年の出雲駐屯地の沿革と今年各部隊の活動状況スライドで紹介され、あの日あの時の懐かしい映像に見入り、時世の流れを痛感した。

最後はお楽しみ抽選会に移り、各自の整理券番号に基づき当選番号の発表に、子供、女性、ダンスチーム、職員、隊員、会員がバラスよく当たり、数々の賞品に一喜一憂、和気藹々のうちに年末行事のひと時を過ごすことができ、迎春を誓い散会した。

